



# 早稲田大学 立川稲門会 会報 27

<http://tachikawatomon.com>

2022年12月20日

第27号

発行 立川稲門会

発行者 小林和雄

事務局 立川市富士見町  
2-36-43



## 早稲田大学校友会 三多摩支部大会を終えて

2022年度東京三多摩支部長 小林和雄 1972(S47)年 理工  
立川稲門会会長

「三多摩の横断幕はどこに飾りましょうか。」と原田さん（三多摩支部事務局長）、「ステージと照明調節はどうなっていますか。」と中村さん（国立稲門会）。巡り合わせで今年たまたま三多摩支部の担当となった国立、立川両稲門会のメンバーが、支部大会の数日前、会場のホテルに集まり最終の打ち合わせ。

9月4日日曜日、三多摩支部大会が、伊藤さんの名司会で始まった。早稲田大学田中愛治総長が、WASEDA VISION 150 を熱く語る。これからの早稲田が目指すのは世界だとの意気込みを感じる。第2部、ジャズ研OBの皆さんによる懐かしいジャズメロディに酔いしれる。ラグビー・スポーツ談義に続き、応援部の元気なパフォーマンス。最後は心の中で歌う校歌で締めくり、終了。

コロナ対策のスクール形式会場に、200人を超す参加者があふれかえる。交流ままならない中、コーヒー1杯で、かくも多くの早稲田の仲間が集まった。コロナ禍でどうなるかはじめのうちは迷ったが、終わってみて、やはりやってよかったと思う。

同じ早稲田の仲間が集い、早稲田の話や音楽でひとつになった。会話を交わさなくても、そこにいただけで早稲田に浸ることができた。リモートでは味わえな



い気分だ。このビッグイベントのために、国立稲門会の皆さんと立川が力を合わせてやり遂げた。なんと素晴らしいことだろう。

支部大会が終わったあと届いた早稲田学報の「早稲田バカ」（辞書に載っているとのこと）特集を読んだ。みんな早稲田が好きなんだ。早稲田愛ある人たちの集まり、これこそ支部大会の意義だとあらためて思う。

それにしても、本来孤独を好み、人との交わりが苦手な私（ホント）が、多くの人たちとの集まりに喜びを感じることに不思議に思う。正直、私はひとりが好きだ。でも、こうして同じ早稲田の空気を吸ったもの同士が同じ空間で過ごすことが楽しい。私もやっぱり早稲田バカなのだ。総長のお話で、慶応とはライバル関係だが、共に世界を目指すのだというのが印象に残った。でも「慶応バカ」とは言わないし似合わない。やっぱり、「早稲田バカ」がいい。

### 立川稲門会新規会員募集中

入会希望の方は、氏名・現住所・卒業年・卒業学部・電話番号・趣味、学生時代の所属サークル等を記載して立川稲門会アドレス ([tachikawatomon@gmail.com](mailto:tachikawatomon@gmail.com))宛にメール送信して下さい。  
年会費3,000円です。追って連絡いたします。

### 2024年 50周年

立川稲門会は、1974年12月発起人会を立ち上げ、翌年1月第1回総会が開催され設立。

50周年総会時には、当会のアピールと会員拡大を図るためにイベントを開催する予定です。ご期待ください。

WASEDA ALUMNI  
SINCE 1885

## 東京三多摩支部大会

「まずい!」と思った。180名参加を想定して、しかもそれでも多めかなと思って進めていたのに、超えそうだ。しかもはるかに。

東京三多摩支部には、26の稲門会がある。7/27に3年ぶりとなる東京三多摩支部大会の案内状を発信、8/10までに6稲門会から返信があり、42名に達した。8/15に再送信、その後の約1週間でほとんどの稲門会から返信があり、8/21に、21番目の稲門会で150名に達した。主幹である立川・国立を除いての数字だ。立川・国立は役員以外にも広く参加を呼び掛けているため、他の会より格段に参加人数が多くなる。この時点で、200名を超えるのは、決定的となった。

すぐ、ホテルの担当に連絡、もともと会場となるホテルで一番広い部屋で、円卓方式(10人×18卓)で考えていたが、円卓方式では200人(10人×20卓)が限度だという。

では、どうしたらいいか?①円卓とスクールの組み合わせ、②スクール形式のみで、飲み物はセルフ方式などいくつかの案を検討したが、①は来賓以外

2022年度東京三多摩支部事務局長・立川稲門会副幹事長  
原田 宜昭 1978(S53)年 理工

のどこの稲門会を円卓にするかを決めるのが難しい、②は人が動くため、感染対策として問題あるなどで、結局、隣同士の間隔は空けず(コロナ以前と同じ)アクリル板を立ててもらい、前後は少し空け気味にしてもらい、飲み物はサーブしてもらうやり方で決定した。

参加者は、名簿上、来賓5名を含む215名となったが、当日のキャンセルや追加があり、最終的には、206名となった。

支部大会当日、私は司会席のそばで、主にパソコンを操作していたが、前から見て、スクール形式でぎっしりと詰まった光景は実に壮観だった。小林支部長や扇田副支部長の挨拶などにフォローや応援の声が飛んでくる。ああ、皆さん、この3年ぶりの対面での開催を待っていて、楽しんでくれているのだなとつくづく思った。またスクール方式も悪くなかったなど。ただ、ジャズの人達だけは普段小さなライブハウスで活動しているだけに、勝手が悪そうだったが。



伊藤副事務局長の名司会



会場ぎっしりの参加者



早稲田大学応援部



原田事務局長の活動報告



座談会・日本のラグビーと  
その他スポーツ



早稲田大学モダンジャズ研究会OBバンド

## 第49回定期総会の報告

コロナ禍の中、10月15日(土)、たましんRISURUホール サブホールにて、コロナ感染防止の対策を取りながら、「第49回定期総会」を対面とリモートの二元で開催しました。

会員の出席は対面27名で、他に早稲田大学東京三多摩地区地域コーディネーター 財務部資金運用担当副部長 有村秀夫様が、来賓としてリモート参加しました。

会長挨拶、来賓挨拶に続き、波多野(副会長)議長の進行で、議題1:2021年度活動報告、議題2:2021年度会計報告、議題3:2021年度監査報告、

議題4:2022年度事業計画(案)、議題5:2022年度予算(案)が、全員賛成で可決されました。

第二部では、出席者近況報告の後、校歌斉唱、写真撮影を行いました。

今年も残念ながら懇親会はなし。これで4年連続で



撮影時だけマスクを外しています

懇親会は行われなかったこととなります。来年は50回目の記念の年、ぜひとも懇親会を実現したいものです。

## 早稲田大学の思い出とは？

このワードクラウドは、主に立川稲門会会員を対象とした「早稲田大学の思い出とは？」のアンケートをまとめたものです。自分の思い出と比べてみてください。



### 学生時代の思い出

#### 『腹ペコの学生時代』

示村悦二郎 1956(S31)年 理工

私が早稲田に入学したのは昭和27年だったので、丁度70年前のことになる。敗戦の傷跡が色濃く残っていて、80人のクラスの中で、学生服を着ていたのは半分もいたか。残りは恰も古着屋の店先のようなだった。さすがに入社試験はこれではまずかろうと、体形の似た者同士で学生服を貸し借りしていた。

この時代の暮らしを最も苦しめたのは食糧不足だった。ほとんどの食料品は配給制度に組み込まれた。米だけは配給の一部を外食券で受け取ることもできたので、我が家では私の配給分を券で受け取っていた。学食でも昼飯を食べるには外食券が必要だったのだ。

3年生になる頃には、世の中に少しはゆとりが出てきた。午後の授業が終わって、高田馬場迄仲間と歩くのだが、その途中にホームラン軒というラーメン店が出来た。午後の腹の空く時間だったので、店から漏れるスープの匂いは強烈な誘惑だった。その店で一番安いラーメンが一杯25円だったが、当時の学生の懐にとってはそう度々寄り道できる額でもなかった。

この年になっても、美味しそうな匂いを漂わせるラーメン店の前へ来ると、当時を思い出して素通りすることが出来ないでいる。

#### 『60年前の国際コンペ』

波多野 進 1963(S38)年 理工

私は昭和38年3月、第二理工学部建築学科を卒業しました。

二理は昭和23年から39年迄存在しました。勿論一理も受けましたが、見事に滑りました。二理も受験し、こちらは「桜咲く」でした。わたしは地方（三重県津市）出身なので、東京出身の同級生がとても眩しい感じでした。

当時の理工学部は安部球場（今の中央図書館）とグランド坂通りを隔てた場所にありました。一部木造の校舎もあり、床の油のにおいが独特でした。3年生の夏に、「第7回国際建築学生会議メキシコ大会」のコンペに、仲間10人と応募しました。色々とアイデアを出したのは、卒業後に設計事務所に就職した仲間でした。10か国、37作品の応募があり、その中で「金賞一席」に選ばれました。賞状や賞品があるわけでもなく、スペイン語で書かれた一枚の紙だけでした。その年の12月には、上野の東京文化会館で展示される機会を得ました。当時、建築専門の月刊誌は3誌ありましたが、その中の一つ「近代建築」に、4ページの記事にいただいた事が大変嬉しかった思い出です。

## 学生時代の思い出

### 『昭和の早稲田』

丸本和代 1965(S40)年 文

昭和36年、60年安保の翌年に文学部演劇科に入学しました。一年生から軟式テニス部に入部し、甘楽園テニスコートから授業に通う日々。当時甘楽園内の蔵が女子の合宿所で、庭園内がランニングコースでした。中学時代から歌舞伎・文楽への興味が強く、早稲田の演劇を選んだので、入学して演劇博物館のバルコニーに立った時は感激しました。また演劇博物館の図書室は、卒論「鶴屋南北」の執筆時まで随分お世話になりました。入学時、文学部の校舎は本部構内の四号館で、二年後に馬場下の記念会堂の先に聳え立つ校舎に移転しました。

二年生からは、歌舞伎研究会の活動が多くなり、授業以外は第一学生会館の部室を中心に、近くの喫茶「茶房」の座敷でコーヒー一杯で延々と議論していました。当時は、面影橋から都電で東銀座の歌舞伎座まで、乗換なしに行けたので、夜の部を観る時に結構利用したものです。さて、学生時代何を何処で食べていたか。学生食堂のハヤシライス、メルシーのタンメン、おふくろの定食、高田牧舎のランチ、金城庵の蕎麦、おにぎり屋のおにぎり等々です。昭和40年卒業後50数年経った今、記憶も曖昧になっている事も多いですが、青春の4年間、早稲田のキャンパスにいた自分を、愛おしい気持ちで思い出しているのも事実です。

### 『青年は荒野をめざしたか』

岩崎信夫 1973(S48)年 教育

S44年4月、入学して最初に読んだ本が古書店で見つけた五木寛之『青年は荒野をめざす』だった。ストーリーは、私と同年のジュンという青年がトランペット片手に横浜港からナホトカ経由でソ連、北欧、西欧へ「自分探しの旅」をするというもの。私も中高校でトランペットを吹いていて、大学では交響楽団に入りたくて早稲田を受験した。まるでこの小説の主人公になったような気分で一気に読み終え、いつしか自分もこんな旅をしてみたいと、漠然とした夢をみながら大学生活がスタートした。

それから丸3年経ち、卒論などに追われる4年生の秋。在学中、ある目的があって週3つのアルバイトをしながら貯金をしていた。しかしその計画が頓挫して挫折の日々を過ごすなか、突然3年前の記憶がよみがえってきた。ジュン青年と同じ外国へ旅をしよう！と……。

4年生の暮れから年明けにかけて、『ソ連の冬の芸術を鑑賞するモスクワ・レニングラード14日間の旅』に出かけた。ソ連という社会主義国を覗いてみたいという好奇心に加え、毎夜バレエ・オペラ・コンサートを鑑賞し、生のロシア芸術に酔いしれた。ポリショイ劇場で聴いた、チャイコフスキー『交響曲第5番』のフィナーレは、50年経った今でも耳の奥底で鳴り響いている。

### 『昭和は遠く』

川端博美 1974(S49)年 法

安保粉碎、大学解体をスローガンに、全国に及んだ学生運動もほぼ沈静化した昭和45年、第一法学部に入学いたしました。女子学生は一割に満たず、第二法学部は既に募集停止で、八年生が数名在籍中という過渡期でした。2年生の学年末試験の出来事です

刑法は時の法学部長、後の第十二代総長の西原春夫先生。試験範囲が広すぎて、出席率の高い仲間のアドバイスで、「殺人罪と放火罪」にヤマをかけ、クラス全員準備万端。さて試験当日、配布された問題用紙には「殺人罪と文書偽造罪について述べよ」。一瞬どよめきの後、西原先生が巡回に来られました。「何か質問はありますか」。男子学生がダメもとで、「先生これは一問選択ですか、二問必答ですか」。場内爆笑。

西原先生、涼しい顔で「二問必答です。では、頑張ってください」と爽やかに去られました。

後日談、刑法を落とした仲間はおりませんでした。皆それぞれに真面目だったのか、『仏の西原』は真実だったのかはわかりません。

立て看に大音響のアジ演説、全学無期限スト、学外では三島由紀夫割腹自殺事件。何かと騒がしい時代ではありました。

令和の今、穏やかなキャンパスを歩いて思います。緑陰にフラペチーノの若人ら 昭和は遠くなりにつけり

### 『大教室授業』

森 泰親 1976(S51)年 理工

上京して半世紀になる今も、方言が抜けていないらしく、「関西のご出身ですか？」と尋ねられる。「そうです。香川県です」の返答に、「讃岐うどんは美味しいですよ」と言われることが多い。この言葉に顔がほころぶ。

大学生活にすっかり慣れた2年生の秋、授業中に猛烈な空腹感が襲ってきた。教授が持つ白いチョークがうどんに見えて、とても我慢できない。そこで意を決して、ペコペコと頭を下げながら大教室を出た。学食に駆け込み、うどんを注文。あっという間に飲み込んで、すぐに教室に戻った。僅か数分の早業である。

再びペコペコしながら席に着いたとき、隣の席の友人が、「大丈夫か？」という視線を送ってきた。行きも帰りも腹に手を当てていたため、腹痛だと思ったようだ。授業が終わってから、その友人に「心配してくれて有難う」だけを言った。実は、行きはすきっ腹を押さえ、帰りはうどん腹をさすってたんだ」とは、とても言えなかった。軽はずみな行動を心から反省した。

この悪行を誰にも打ち明けないで、墓場まで持っていくつもりだったが、いま紙面を借りて懺悔をしたい。「先生、本当に申し訳ありませんでした」。



## 『早稲田大学の思い出』

柴 香里 1986(S61)年 教育

入学したのは1982年で、100回目の新入生として、創立100周年のイベントが色々あり、「良い年に入学した。」と思いました。6年間の女子校生活からの進学で、男子学生には最初こそ戸惑いましたが、その後は違和感なく？、居心地よく過ごすことができ、大学院まで含めて8年間を過ごしました。ただ、当時は教育学部でも男子トイレは全階にあるのに、女子トイレは奇数階のみだったのが、今では考えられない状況でした。

学生生活は、教員を目指して教育学を専攻しつつ、考古学研究会に所属して学芸員、読書好きだったので図書館関係の資格と、結局4つの資格を取得し、卒業しました。大隈講堂の20時の鐘を聞きつつ帰る日もありました。人生は1回なのだと思いますが、今、教育委員会で働いていて資格は様々な役立っています。アルバイトは家庭教師に遺跡の発掘等、また合間には、地元の子どもの会のジュニア・リーダーの指導や、少年院を出た少年たちの支援等のボランティア活動で忙しく過ごしていました。大学院に進学し、文学研究科で急に少人数教育となって、「何のために学ぶのか？」など学問の厳しさを感じたこともありました。

また、入学と同時に立川稲門会に入会したので、様々な先輩方や後輩の皆さんとの出会いもあり、私にとっては稲門会も学生生活の一部です。

今でもこのような思い出を語ることができ、幸せに感じています。

## 『早稲田時代を振り返って』

高橋 匡弘 1989(H1)年 教育

私の大学生活は、明らかにサークル活動（早大混声合唱団に所属）が中心になっていたのが正直なところ。特に3年次は技術系の役員（ベースのパートリーダー）だったこともあり、授業以外は終日部室に入り浸りで、団員に練習を付けたたり話し込んだりしていました。その後は、高田馬場の馴染みの店に飲みに行き、時にはそこで一夜を過ごしたこともあり、合宿も新歓は軽井沢、夏は志賀高原、春は房総半島先端の千倉で行い、時には珍事に巻き込まれたりしていました。

他にも同志社大学生混声合唱団との交歓演奏会のため、隔年で京都に遠征したり、お座敷がかかってフジテレビの「FNS歌謡祭」や「夜のヒットスタジオ」のバックコーラスに加わったり、井上道義氏と大友直人氏の指揮で、早稲オケとの「第九」を経験できたことも楽しい思い出です。

演奏会で歌っていた曲の8割近くがドイツ語だったため、ドイツ語の発音は随分練習した記憶があります。そのおかげでドイツ語の読み方だけは、語学の授業に出席するよりもはるかに身に付いた気がします。

サークル活動以外では、体育実技の授業で私は野球を選択したのですが、安部球場（私が3年のときに閉鎖され、現在は総合学術情報センター）でプレーできたのは、今となっては貴重な思い出です。その時の教官が、私の兄も教わった方で、甲子園の高校野球の名物審判だった西大立目先生だったこともあり、結構気合を入れて出席していました。そういえば一度、東京六大学のリーグ戦を観戦して、1試合分のスコアを付けてきなさいという、一風変わった宿題もありましたね。（笑）

## 『私の学生時代』

亀井 裕子 1990(H2)年 政経

校友会の常任幹事を務めている関係で、コロナ禍で激減したとはいえ、時々大学キャンパスに行きます。私が学生だった頃とは違い、今は校舎の建て替えが進み、立看板もなくなりキャンパスはすっかり綺麗になりました。そして何より今は女子学生が多い。私は政治経済学部の卒業ですが、当時は同じクラスに女子は2名、ゼミの同期の女子は3名でした。私は音楽系のサークルに所属していましたが、こちらは女子学生はいるものの、そのほとんどが他大学の学生で、同じ学年の早稲田の女子学生は、これまた2名しか所属していませんでした。ずいぶん様変わりしたものだなあと感じます。当時はまじめに勉強することもなく、授業に行っているのか、サークルのたまり場であった第2学生会館に行っているのか、わからないような生活でした。今思うと、もっと真面目にいろいろ勉強するべきだったと、後悔することしきりですが、私のような不真面目な学生は珍しくなかったように思います。今の早大生は、真面目に授業に出席して勉強する人が多いと聞くと、こちらも隔世の感があります。

## 『妻との出会い』

岡野 和弘 1996(H8)年 法

私は1991年に入学し、4月の新勤の時期にとあるバンドサークルに入りました。その年のサークルの夏合宿に参加すると、2年生女子4名と3年生男子1名で構成される、バンドとの出会いがありました。バンドメンバーの内女子1名は私と体格や、顔付きや、肌の色が何となく似ていたことから、サークル内で二人は「きょうだい」（姉と弟）と呼ばれるようになりました。「姉」の学部は第二文学部（文学部再編前）でした。バンドメンバーとは何となく気が合って、以後私がそのバンドに参加したり、不定期ですが、バンドメンバーに私が加わって飲み会をしたり、旅行したりしていました。飲み会や旅行の付き合いは卒業後も続き、その結果というべきか、私が1996年に司法試験に合格して1997年に司法修習が始まる頃に、私は「姉」とお付き合いをするようになりました。1999年に司法修習が終了し、弁護士登録をする頃に私は「姉」と結婚して、「姉」は「妻」となりました。結婚後は2男1女に恵まれました。学生時代から30年近く経過した今になって振り返ると、妻との出会いが学生時代の一番の思い出というべきか、と感慨に浸りました。



# お気に入りの場所 in 立川



今回も立川の素敵な風景が届きました。それぞれの思い出が伝わってきますね。皆さんも「おすすめの場所」がありましたら、ぜひご紹介ください。

## 砂川の大ケヤキ

**鈴木茂夫** 1954(S29)年 一文  
立川市砂川町2丁目に、高さは30メートルを超える大きなケヤキがあります。町の人は「三番組の大ケヤキ」と呼んでいます。17世紀のはじめ、武蔵野の新田開墾が始まった頃、街道の並木にとケヤキが植えられたようです。しかし、多くのケヤキは切り倒されました。大ケヤキは、砂川家の屋敷うちにあっただので生き残りました。400年近い風雪に耐えたのです。これからも大切にしていきたいものです。



## 中央南北線道路

**小林章子** 1979(S54)年 法

立川に引っ越してきて、初めてこの道路を車で通った時、こんなにまっすぐな道が長く続いていることに驚いた。あれから数十年、市役所、防災館、拘置所など建物も増えてきた。

家から立川駅に行くときに必ず通る道。特に自転車で通る時が気持ち良い。

春に桜が咲いてから花吹雪までの風景にはうっとりする。

前を向いて自転車をこいでいても、まっすぐな道が続いていて行きつく先が見えない。もし

かしたらこのまま未来へつながっているのではないか、フワッと浮き上がってETのように空を飛べるのではないかなどと想像力が掻き立てられる。



## 根川緑道

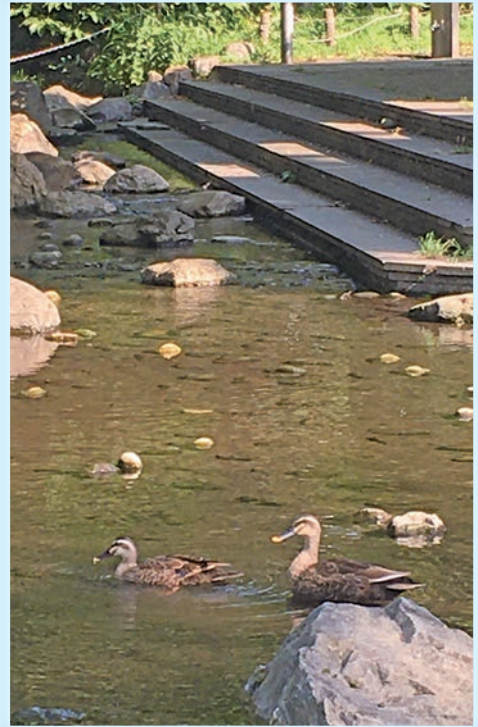
鎌田 健吾 2001(H13)年 政経

私の自宅近く、柴崎体育館駅の南を根川が横切って流れています。

上流は残堀川と繋がっているのかもしれないが、現在は残堀川からは切り離され、錦町下水処理場の高度処理水が流れていて、令和5年度には下水処理が東京都に編入され、根川にはろ過循環された周辺の井水（地下水）が流れる予定です。

空ではアオサギが翼をはためかせ、地面ではアオダイショウが這いつくばっています。

夏は、子どもも大人も一緒になってザリガニ釣りの技を競っています。



## 多摩川

鈴木 一廣 1963(S38)年 法

多摩川が立川市を流れるのは約3キロ程です。私はその中で中央線橋梁の上（かみ）下（しも）2\*弱の遊歩道をよく走ったり散策したりしています。

静かな河原に降りると聞こえるは流れる水の音、鶯の鳴き声、目の前にはシラサギが数匹、カモやセキレイも。今年2月には鶴が12羽とどまっていたが3月には北の国に飛び立っていきました。

遠くには富士山、奥多摩の山々、丹沢山脈が見られます。夕方になるとその山々が真っ赤に燃えるのです。そして今度はキジがケーンケーンと鳴きます。

私はこの河原が好きで年に何回かテーブルやイスなどを持ち込み、それこそソロキャンプならぬデイキャンプをしています。

美しい景色、ワインと食事、その後のカフェ。2時間ほど居ても誰も来ない。至福のひと時です。



## 同好会だより

### 散策の会

立川市内の名所、旧跡を訪ねて、のんびりと歩こうと始まった会。早いもので、20年近くになりました。現在は、市内だけではなく、近郊の里山、公園、名所などを歩いています。当初は、10Kmくらいがめどでしたが、今は、4～6Km程度です。毎月（除く7月、8月・夏休み）第3水曜日に実施しています。会員にはメールで案内をしていますが、同じ内容を、立川稲門会ホームページにも送信しています。飛び入り参加も歓迎です。入会はもっと歓迎です。

### ゴルフ愛好会

ゴルフを通じて老若男女問わず多くの人と交わり親交を深めることができます。初心者・女性入会大歓迎！ゴルフの楽しさ、満足感が立川稲門会ゴルフ愛好会にあります！年4回ゴルフコンペ開催しています。今後、他の稲門会との対抗戦、女子プロトーナメント観戦ツアー開催検討中！

連絡先 山口哲彦 携帯 090-8330-1581  
mail : yamaguchi@nagai-komuten.jp

### 早稲田ラグビーを愛する会

当会は、毎年2回、11月23日（祝）の早慶戦、12月第一日曜日の早明戦観戦応援を行っています。コロナ禍以降、活動を断念、全面中止となりました。一日も早く、コロナの終息により、活動を再開し、仲間の皆さんと共に、観戦応援できる日を待ち望んでいます。

連絡先が明記されていない同好会に関する問い合わせは、立川稲門会代表メール(tachikawatomon@gmail.com)へ。

### 談話サロン

当会は、稲門の皆さんの関心事、体験談、研究テーマ、活動などをご披露頂き意見交換する事をテーマに活動しています。今期は、コロナ禍の影響を受け休会もありましたが、皆様のご支援で活動出来ました。実施済テーマは、「SDGSを考える」「私にとっての10大ニュース」「現代の生老病死」「地域包括センターと介護保険の利用」「歎異抄」「よくわかる高齢者サービス」と多岐に亘ります。

◆開催日：毎月第2火曜日14時から16時

◆場所：立川市子ども未来センター

◆参加費：500円

◆連絡先：小宮山 正明 (S43年 理工)

メール：mkomichan@gmail.com

### 稲酔会

稲酔会とは、楽しくお酒を飲みながら地域の垣根を越えて、稲門同士で交流を深めることをモットーとしています。稲酔会は、コロナ前までは、年3回の例会を中心に活動をして参りました。春の早慶レガッタは、アサヒビールのゲストルームをお借りして、武蔵野稲門会をはじめとする近隣稲門会と合同で応援を行います。夏は、立川近辺で暑気払いを行います。秋は、青梅線沿線の稲門会と合同稲酔会を開催しています。一日も早く、皆様とまた一杯飲める日を心待ちにしております。

(代表/長野 長正 事務局/上野 竜造)

### 宮木博司さんの死を悼む

1972 (S47) 年 政経

突然の訃報だった。具合が悪いとは知っていたが、こんなにも早く、本人はさぞ無念であったらと思う。ヨット部で鍛えた体でも病にはかなわないものか。あの大らかで優しい眼差しの宮木さんと一緒に稲門会をやっていくことがもうできない。残念でならない。出棺のとき、仲間と一緒に校歌を歌い、エールで見送った。それが最後の思い出になってしまった。(小林和雄記)

### 訃報 古川剛久さん

1953 (S28) 年 商

会員の古川隆久さんが、2月19日91歳で逝去されました。古川さんは、昭和23年旧制第二高等学院に入り、昭和28年商学部を卒業。苦しい中でも、大学近くの音楽喫茶で、クラシックレコード鑑賞にふけったり、楽しい学生生活だと会報(12号)に記しております。銀行に入り、支店長で定年に。学生時代から、砂川昌平会長の近く、砂川に住み、その後、最後まで幸せな家庭生活でした。定年後は、稲門会の役員として、発展に長い間尽力されました。ゴルフ同好会・稲酔会・散策の会・談話サロンで、生き方、働き方を、いつもあの笑顔で、後輩に教えて下さいました。晩年は、自転車で楽しそうに走っておりました。「父は稲門会が大好きでした」と、お嬢様に葬儀で、お礼のことばをいただきました。昨年10月の総会では、最長老でお元気で。ご冥福をお祈りいたします。(廣瀬俊夫記)

編集  
後記

東京三多摩支部大会を通じて、改めて早稲田の良さを痛感しました。特に、人とのつながりです。この会報を読んで楽しんでいただき、新たな会員が一人でも増え、一緒に50周年を迎えられたら、幸いです。(伊藤裕康)